

「コーリー・グッドが深層国家の最大のネメシスを明らかにする」—概要（1）

Greatchain

2019/01/25

これは、Ben と Rob という 2 人の若者が司会する、The Edge of Wonder というシリーズ番組の 1 つ、“Corey Goode Reveals Deep State’s Biggest Nemesis …” というユーチューブの概要である。インタビューの相手は、Corey の他に、もう一人 Roger Richards がおり、彼らは、その啓蒙的諸作品の、プロデューサーとディレクターであるらしい。

もちろん、インタビューのすべてではなく、彼らの**語録**のようにになっている。内容は、我々が普通は知らない、アメリカの「深層国家」または「陰の政府」の奥にある暗黒世界の内情で、これまでインサイダーだった人々が、表に出てきたと考えてよい。（私は、かなりの量の、イルミナティ離脱者「スヴァーリ」の告白を訳しているが、それとも重なる。）これを紹介することにしたのは、彼らの語る内容が、単に、エイリアンなどのおどろおどろした世界の話でなく、霊的に高度な、我々の生き方の問題を含んでいるからである。それは教訓や説教などではない。いわば体を張って学んだ、彼らの教える真理である。

最初、Q や Qanon と名乗る人物が、誰かという話題から始まって、「宇宙軍」や、子供人身売買の話題に移っていく：——

Corey Goode: 私は Q とは、Alliance（陰の反陰謀団同盟）の一部で、個人ではなく、グループだと聞いている。これは、全く明らかに軍隊的なやり方だ。その人々は、トランプ政権に非常に近く、そこに巻き込まれている。

そこには、前軍情報部のかなりの高官が、かなり多数いる。

あるとき、多分 3 人の将軍がトランプに近づいて言った——「我々は、もし法的に、合憲のやり方で国家を取り戻せないなら、クーデタを起こそうと考えている。あなたに、やる気はあるか？」

トランプは「ある」と答えた。それが全部だった。

だからこれが、Alliance の拡散の手段、プロパガンダの手段になっている。

アメリカの Alliance は、軍のさまざまなグループ、現役、また退役の、軍情報部の人々だ。彼らは DOD や DIA の、憲法を守ろうとする、そしてこの巨大な陰謀団を倒そうと決意した人々だ。

この人たちが、あけっぴろげにこの運動をやっている理由の一つは、この同盟に貢献しているロシア、インド、ブラジルなど、世界中の 140 から 160 の外国があるからだ。彼らは、このサタンの陰謀団を倒すために、この大戦争に参加している。(訳者——当然、日本も含まれているだろう。参加は道徳的義務であり、万一、参加していないとしたら国辱である。)

Roger Richards: ちょっとコーリーを補足すると、Q アノンの立場から言うと、多様な、一般の人たちのことを考えて、コーリーの言っているようなことを言葉の面から考慮することができる。まずアイデンティティ (正体) を隠さねばならない。また、人々がミーム (適切な流通語) をうまく使ってくれるように、仕向けなければならない。ミームの傑作が生まれて、インターネット上で、みんながそれを使うようになるよ。しかし実は、馬鹿な奴もいて、ミームが読めないこともある。我々は、ハッシュタグや鉤カッコなどをつけて、フェイスブックなどが拾ってくれるようにしている。コメント上の用語の量なども計算している。そして、それが煮え詰まって、ある個人の人格が現れてくるようにしている。これは人々が目を覚ますように、彼らをこの運動へと導いていく作戦なのだ。

もう一つは、市民ジャーナリストをうまく利用することだ。(訳者——前にも書いたが、私は最初、Q の考えと私の考えが、あまりにもよく合うと思った。) 最初の前提が、共通でなければならないのだ。そして、市民ジャーナリストこそが、主流ジャーナリズムなのだ。我々はあえて、CNN の使うような言葉を使っている。しかし地下運動の観点から見れば、あなたはそれによって、もっと高い見方を与えられており、あなたは大衆から、主流新聞よりも注目されているのだ。

だから Q は、私の考えでは、直接的で行動的な戦略を人々に与えている。一方で、人々は自分自身のコメントを、自分の行動のために使っている。だから、これらの命令は、出て行ったり、こちらに返ったりしているわけだ。だから、物が起こっているのを背後から見ていると、行動が起こり、起訴が次々になされ、公的に何かが決まったりすると、Q の言ったことは本当だった、ということになる。それは人々に、今、背後で何かが起こっているという

ことに、気づかせるためだ。それは彼らが、あなた方を、次の段階へと向かわせようとしているのだ。もうひとつ、そこで考えられるのは、この高度に発達した技術を見ていると、ひょっとしたら、これらの将軍たちの何人かは、Qグループにかかわっていて、彼らは、この高度な技術を知っているのではないか、と思われることだ。

Qアノンのように、最初に出てきて、人をひっかけるコードを見ていると、ある人々は、ミシェル・サラの、またはデイヴィッド・ウィルコックの本を思い出さだろう。『青白い馬』のような本はどうだろうか？ これらの本は、より大きな、より幅広い真理のいっぱい詰まった本だ。そのように、Qアノンは、広い範囲の人々の、多くの異なったレベルの、集合体のように見えるのだ。それで私は、将来、Qアノンが本当に、このような抑圧されていた技術に焦点をあてて、仕事を始めたとしても、驚かないだろう。

ロジャー・リチャーズは、謎だったQやQanonの種明かしをしてくれるが、彼は我々をたぶらかしているのではない。彼は明らかに、巨大な陰謀団を倒す最大の武器としての、意識の大集合体、あるいは大融合体を考えている。そしてこれは単に武器ではなくて、これからの我々の開発していくべき未来の課題である。

私にとって、最初から不思議だったQという存在に、もう一つ不思議なことがあった体験を、恥ずかしながら書いておきたい。私はこの正月、ある小冊子に頼まれて年頭所感を書いた。そしてこの正月が、大きく世界情勢の変わる時期のように見たので、「瘴気去り瑞気は天を轟かす」という俳句を添えた。すると、その後で聞いたQの言葉の朗読の中に、“strong clouds loom”という言葉が二度も出てきて、読み手は何のことかわからないようだった。私は、「それは私の俳句だ」と言いたかった。そこに何の因果関係もあるはずはない。しかしこれは、強いシンクロニシティ、つまり「意味のある偶然」が起こったのだと、私は考えている。

(1はここまで、2に続く)